

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	静岡県	市町村名	静岡市	大学名	
派遣日	令和 4年 8月 22日 (月 曜日) 13:00~16:00				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 (派遣) / 遠隔				
派遣場所	静岡市教育センター 静岡市葵区与一6丁目17-10				
アドバイザー氏名	今澤 悌				
相談者	静岡市教育委員会学校教育課特別支援教育センター				
相談内容	「日本語指導研修会」における講義項目 1 学校生活や学級での授業を意識した日本語指導について 2 日本語指導担当教員からの質問				
派遣者からの指導助言内容	「日本語指導研修会」における講義 【参加者】日本語指導担当教員4名、日本語指導員(有償ボランティア)15名、指導主事2名、共生教育推進コーディネーター1名 【内容】 1 学校生活や学級での授業を意識した日本語指導について (1) 日本語プログラムコース設定、JSLカリキュラム ・「生活者としての在留外国人」を意識し、子どもの生活(学級の生活、学習、行事、季節等)に関連付けながら同時並行的に進めていく。 ・指導者は指導を工夫し、在籍学級の授業に参加できるよう支援していく。 ・トピック型JSL、教科志向型JSLにより、各教科に共通した学ぶ力や、各教科特有の学び方を、体験を通して習得していく。 (2) 授業づくりのステップ、担任との連携 ・「教科の目標」を達成するために必要な語彙や表現を考え、「日本語の目標」を設定する。 ・在籍学級の授業に参加できるよう、教育課程や担任との打ち合わせから指導計画を考える。 ・日本語と教科の統合学習の授業を位置付け、学習活動を考える。 (3) 担任との連携 ・日本語指導の「記録」を通して意見交換を行い、在籍学級の授業をいかに生きた学びの場にしていけるか、その子に応じた「学び」を工夫していく。 ・日本語に課題がある子どもを含めた様々な子ども達が、対等な学び合いができる授業を創造していく。 (4) 日本語指導の実際と子どもたちの悩みや課題 ・自分の意志での渡日ではないことから日本や日本語への複雑な思いがある。 ・大切なのは「日本語の知識・技能」だけでなく「日本で生き生きと生活する意欲と力」を育てていくこと。また、認め、励まし、課題に対しどうやって乗り越えていくか一緒に考える姿勢が大事。				

	<p>2 日本語指導担当教員からの質問</p> <p>(1) 学級担任との打ち合わせ方法</p> <ul style="list-style-type: none">・なかなか時間をとることが難しいが、個別計画を立てる時や評価の時に一緒に行えば、よいタイミングで情報交換をすることができる。 <p>(2) 中学生のやる気を引き出すには</p> <ul style="list-style-type: none">・週に1回の日本語指導を通して授業に前向きにさせるには、逆算して計画を立て、「次の単元では、これをやってみよう。」と目標を共有することも有効。・複数の文化や言葉を使っていることの素晴らしさを、保護者や学級の子どもたちに伝えることが大事。・高校進学について悩むことがあるが、一緒に考える姿勢をもつことが大切。 <p>(3) 日本語指導と発達支援について</p> <ul style="list-style-type: none">・日本語母語の検査しかないので難しいところ。・日本語を覚えてきたら行動が見違えるように落ち着いた事例がある。地域、民生委員等も含め、色々な立場のから子どもを見守り、総合的に判断していく。
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p>事例をもとに、具体的な指導法をご紹介いただく中で、個に応じた指導のヒントが多くあった。日本語指導担当教員による日本語指導において、きめ細かな計画と工夫が行われるようにするためには、学級担任等との連携が不可欠であることも再認識された。日本語指導教員は、訪問指導先々の学校で、学級担任、管理職、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、図書館司書などに日本語指導や多文化共生の視点を与える役割を担っていくことができる。今後は、日本語指導教員が多文化共生コーディネーター、日本語指導研修リーダーとして多くの学校で機能するための研修を行っていく。</p> <p>オンラインで参加した日本語指導員（教員ではない）は、普段見ていない在籍学級での授業内容や、日本語と教科の目標の両面について知ることができた。また、友達とのよい関わりや、授業への参加を日本語指導で支えるというイメージができた。今後は実際の在籍学級での授業見学や、日本語指導の授業を参観することを通して、さらに子どもたちの実態把握や日本語と教科の統合学習につながるようにしていく。</p>

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。